



# 氷川前遺跡第99-1地点 発掘調査速報

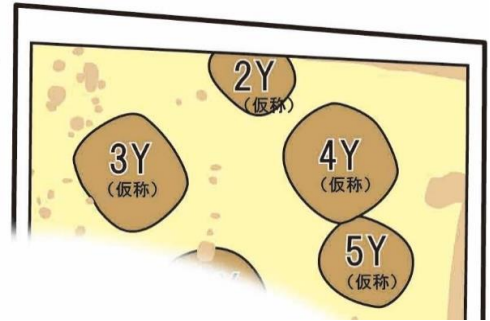
作成日：2023.11.7  
富士見市教育委員会  
生涯学習課 文化財G

④ 令和5年10月23日～27日(弥生時代住居編)

10月第4週の作業では、先週から継続して掘り下げていた調査区北側に位置する弥生時代の住居跡、仮称2Y～4Yを完掘(掘りあげること)することができました。

また、仮称4Yと接する住居跡、仮称5Yについても今週から掘り、完掘しました。

完掘した住居跡については、記録写真や図面を作成し、記録を残していきます。



発掘作業の様子



2Y(仮称)  
完掘した様子

床に埋めこまれた？土器



調査区の最北端部分で見つかった弥生時代の住居跡、2Y(仮称)の完掘した様子です。上から見ると、隅が丸い長方形に近い形をしていたようです。長辺は3.5mほどと、やや小ぶりの住居跡でした。床面に下半分を埋め込んで設置したような状態で出土した土器が特徴的です。意図的に埋め込まれたものだとしたら、この土器にはどのような用途があったのでしょうか。



# 3Y(仮称) 完掘した様子



3Y(仮称)の「火皿式炉」



調査区の北西部で見つかった弥生時代の住居跡、3Y(仮称)の完掘した様子です。  
上から見ると、隅が丸い長方形に近い形をしています。長辺は5mほどで、4本の柱穴、住居隅に設けられた「貯蔵穴」や、床面に粘土を張り付けてつくられた炉「火皿式炉」など、富士見市域における弥生時代住居跡の標準的なモデルの一つと言えるような住居跡です。  
住居跡の床面は、まるで土間のように硬く踏み締められていました。



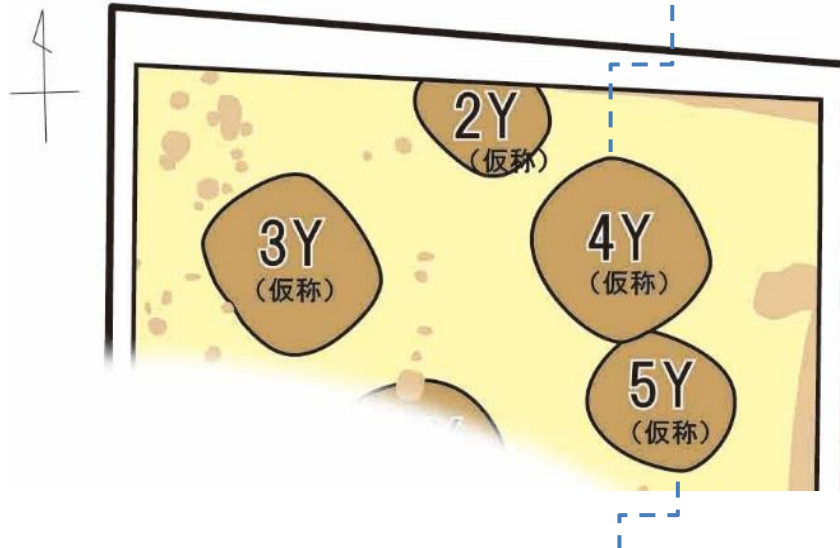


## 4Y(仮称) 完掘した様子

弥生時代の住居跡、4Y(仮称)の完掘した様子です。

隅が丸い長方形に近い形をしています。長辺は5mほどでした。

住居跡の床面には、メインとなる4本の柱穴をはじめとした、いくつかの小ピットがあったほか、住居中央やや奥に、床面を浅く掘りくぼめた炉「地床炉」が確認できました。



## 5Y(仮称) 完掘した様子

弥生時代の住居跡、5Y(仮称)の完掘した様子です。

隅が丸い長方形に近い形をしています。長辺は4mほどでした。

住居中央やや奥に、「地床炉」がありますが、明確な柱穴はありませんでした。

弥生時代の小ぶりの住居跡には、しばしば柱穴が見つからないものがあります。どのようにして上屋を建築していたのでしょうか。